ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

医学部

◎ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

医学部では、順天堂大学医学部の使命の下で策定された各年次のカリキュラムを履修し、かつ定められた基準に合格することによって、順天堂大学医学部のコンピテンシーを身に付け、次の資質・能力を修得した者に対して学士（医学）の学位を授与します。

Ⅰ．診療技能・患者ケア，医学的知識

科学的根拠に基づいた医療・医学研究を行うための基礎、臨床の医学的知識を有し、体系的に理解し説明できる。それを応用し、基本的な診察・手技を適切に実践できる。

Ⅱ．医療安全

医療安全の重要性を理解し、適切に実践できる。感染予防対策の適切な方法・プロセス、問題を起こしやすい状況とその対応を理解し実践できる。

Ⅲ．チーム医療，コミュニケーション

チーム医療や患者の抱える問題を理解し、医療チームの一員として適切に多職種と連携することができる。他者と信頼関係を構築することができ、良好なコミュニケーションがとれる。

Ⅳ．医療の社会性

行動科学、社会医学、地域医療のシステム、プライマリ・ケアを理解したうえで、患者・国民のニーズを認識し、必要な医療と医療制度を概説できる。

Ⅴ．倫理とプロフェッショナリズム

医の倫理・生命倫理、患者の権利・立場と心理を理解し、高い倫理観・適正な態度を身につけている。倫理・法律に反しない行動ができ、医療人・研究者としての責任感をもって行動できる。

Ⅵ．自立的学習能力，順天堂大学医学部で学んだ者としての誇りと責任

順天堂大学で学んだ者として、生涯にわたってアクティブに自分の目標に向けた学習をする不断前進の態度・習慣を身につけ、医の歴史や健康に与える運動の影響を理解し、他を思いやり慈しむ心（学是「仁」）を持った行動ができる。

グローバル化する国際社会において医学・医療の分野で国際的に活躍できる語学力、医療能力、未来を切り開く人間性溢れる豊かな教養を有している。

◎カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

順天堂大学医学部の使命の下で、卒前卒後の継ぎ目のない教育を目指し、順天堂大学医学部のコンピテンシーを身に付け、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力を修得するため、以下のとおり教育課程を編成・実施します。また、学修成果を適切に評価し、教育方法の改善を行います。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

医学部

1. 常に相手の立場に立って物事を考え、人間として、医療人として他を思いやり、慈しむ心、即ち学是「仁」の心を涵養するため、1 年生全員を学生寮に約 1 年間入寮させ、集団の中での個の確立と、学是「仁」の涵養を寮生として実践実習します。
2. 科学的根拠に基づいた医学・医療・研究を行うための体系的な知識、確実な技術・技能、適正な態度を身に付けるため、1 年次には自然科学と英語を中心とした基礎教育及び医療入門を提供します。また、特定の課題を少人数による議論と思考で進める PBL(Problem Based Learning)を行い、全学生のモチベーション及び課題探求力・分析的評価能力を向上させる場を提供します。１年次後半以降の専門科目においては、生命科学、基礎医学、臨床医学を関連づけ、体系的に学び、医学への探求心を養うため、臓器別・病態別の水平的・垂直的統合型カリキュラムを採用します。
3. 3 年次には、科学的思考能力を高め、医学における研究の重要性を理解し、生涯にわたってアクティブに自学自習する態度・習慣を涵養する小グループ制の基礎ゼミナールを設定します。将来、研究者を目指す者に対しては、研究医を養成するコースを設けます。
4. 常に相手の立場に立って物事を考え、人間として、医療人として他を思いやり、慈しむ心、即ち学是「仁」の心を涵養するため、1 年生全員を学生寮に約 1 年間入寮させ、集団の中での個の確立と、学是「仁」の涵養を寮生として実践実習します。
5. 入学後の早い時期から病院見学、看護実習、施設実習、医療体験実習、診察技法実習、基本手技実習、救急医学実習等の体験実習を行います。医療職の一員として医療の現場に参画することにより、保健医療制度を理解し、多様な職種の専門家との連携や共同作業を行えるコミュニケーション能力の涵養を目指します。特に、4 年次後半からの本格的な臨床実習では、それぞれ特徴的な機能を持つ医学部附属 6 病院で患者を受け持ち、実際に医療チームに加わることにより、臨床能力を身に付ける教育を行います。
6. 教養教育を重視するとともに、国際社会で活躍できる能力を養うため、実践英語を高学年まで課します。5、6 年次の臨床実習では、海外での実習機会（2～8 週間、留学先は自ら選べる）を提供し、国際的視野を獲得する場を提供します。

学修成果は、授業科目の修得状況による客観的評価、コンピテンシーの項目群を学生が参照し、定期的に自己のパフォーマンスを評価する主観的評価によって、包括的に評価します。各科目のコンピテンシー達成レベルはシラバス等に明示します。

学生によるコンピテンシーに基づくカリキュラム評価結果を活用し、カリキュラムの自己点検・評価を行います。内部質保証の維持、向上のため、第三者の視点を踏まえ、カリキュラムの自己点検・評価を定期的に行い、教育方法の改善につなげていきます。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

スポーツ健康科学部

◎ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

スポーツ健康科学部では、本学の学是「仁」及び理念「不断前進」の精神に基づき、「スポーツと健康」に関する多角的な視点、専門性並びに高い倫理観を備え、スポーツを通じて持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成します。スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科では、次に定める資質及び能力を身に付けた者に対し、学士（スポーツ健康科学）の学位を授与します。

1．スポーツ健康科学に関連した幅広い知識を基礎とした教養
2．スポーツ又は健康に関わる分野で指導的な役割を果たすための高い倫理観
3．グローバル社会において連携や協働を促進するためのコミュニケーション能力とリーダーシップ
4．社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力

◎カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

スポーツ健康科学部では、「学是である「仁」の精神に基づき、「スポーツと健康」に関する多角的な視点及びスポーツ健康科学分野における専門性並びに高い倫理観を備え、多様な価値をもつスポーツを通じて社会の発展に貢献できる人材を育成する」ことを教育研究上の目的とします。教育目的を達成するための本学部カリキュラム・ポリシーは次に示す通りです。

1．スポーツ及び健康に関する諸科学の幅広い知識を基礎とした教養を身に付けるため、人文、社会及び自然に関する諸学並びにスポーツと健康に関する多面的な学問分野のそれぞれについて授業科目を配置するとともに、他学部開講の一部科目を履修可能とし、多角的な視点を身に付けることができる自由度の高い教育課程を編成します。（本学部ディプロマ・ポリシー「1．」に対応する）
2．スポーツ又は健康に関わる分野で指導的な役割を果たすために求められる倫理観を身に付けるため、倫理教育を行う授業科目を配置する他、演習、実習及び実技活動並びに1年生全員が入寮する学生寮での生活を通じて、集団の中での個の確立と学是「仁」の精神の涵養を促します。（本学部ディプロマ・ポリシー「2．」に対応する）
3．連携や協働を促進するためのリーダーシップ又はコミュニケーション能力を身に付けるため、リーダーシップ又はコーチングに関するテーマを扱う授業科目を配置する他、演習、実習及び実技科目を中心に集団での課題解決学習を取り入れます。また、国際社会において活躍するために必要な外国語運用能力を高める授業科目を必修とします。（本学部ディプロマ・ポリシー「3．」に対応する）

スポーツ健康科学部

４．自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野の専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力を身に付けるため、全ての授業で学生が能動的に学ぶことを重視した教育方法を取り入れます。３年次からは、各専門コースにおいて、学生それぞれが目標とする知識や能力を身に付けるための専門性の高い科目を配置します。また、ゼミナールや卒業研究では、丁寧な個別指導によって、身に付けた知識やスキルを統合し、各専門分野での探究力を深化させ、他者への伝達力を養成する教育を行います。（本学部ディプロマ・ポリシー「４．」に対応する）

学修成果は、シラバスに明示された評価方法に基づき、授業科目の修得状況を総合的に評価します。加えて、学生自らの授業への取り組みの主観的評価、学生の学修状況や授業評価を活用して教育方法の改善につなげていきます。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

医療看護学部

◎ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

医療看護学部は、教育目標に沿って設定した授業科目を履修して所定の単位を修得するとともに、次の資質・能力を身に付けた者に対し、学士（看護学）の学位を授与します。

1. 豊かな感性、教養及び高い倫理観を備え、他を思いやり、慈しむことのできる能力
2. 個人、家族及び地域社会の人々それぞれの健康レベルに応じて知識・技術を駆使し、エビデンスに基づいた看護を実践できる能力
3. 関連分野の人々と協働して、看護職者の役割を果たしていくために必要な人間関係を構築できる能力
4. グローバリゼーションが進む現代社会に柔軟に対応でき、多様な価値観を理解し、適切な判断と問題解決ができる能力
5. 自己の知識、技術、態度を自ら評価し、他者からの評価も謙虚に受けとめ、探求心を持って自己研鑽できる能力

◎カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

医療看護学部のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下に示す方針に基づいて授業科目を「人間と教養」、「人間の健康」、「看護の理論と方法」、「医療看護の統合と発展」の４つの科目群に編成し、それぞれを学年進行とともに段階的に着実に身に付けるように学修するカリキュラムを編成します。また、学修成果を適切に評価します。

1. 豊かな感性、教養及び高い倫理観を備え、他を思いやり、慈しむことのできる看護職者としての人間性を涵養するためにリベラルアーツ関連科目と専門を学ぶ上で必要な授業科目を全学年にわたりバランスよく配置します。
2. 個人、家族及び地域社会の人々それぞれの健康レベルに応じて、エビデンスに基づいた看護を実践するために必要となる知識・技術を着実に身に付けるための授業科目を系統的に配置し、高度な専門教育につながるカリキュラムを提供します。
3. 看護師・保健師・助産師としての実践能力を段階的に獲得するように授業科目を編成します。保健師や助産師の資格取得を希望する者にはそれぞれに必要となる授業科目を適切な時期に配置します。
4. 実習・演習は、関連分野の人々と協働して、看護職者の役割を果たしていくために、保健医療チームの一員として多様な職種と連携できる看護職者を涵養する内容の授業科目を配置します。特に、分野別実習では、看護職者として必要となる基本的態度を身に付けます。
5. グローバリゼーションに対応できる看護職者となるために必要なリベラルアーツ関連科目を全学年に渡りバランスよく配置します。
6. 自己の知識、技術、態度を自ら客観的に評価し、他者からの評価を真摯に受けとめ、探求心を持って自己研鑽する態度を身に付けるために、授業におけるアクティブ・ラーニングを促進します。

医療看護学部

7. 学修成果の評価は、授業の進度に合わせシラバスに明示された学修目標とコンピテンスに基づく小テスト・定期試験・レポート、実習評価等を含め、総合的評価を行います。加えて、学生自らの授業への取り組みの主観的評価、学生の学修状況や授業評価を活用して教育方法の改善につなげていきます。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

保健看護学部

◎ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

保健看護学部に 4 年以上在学し、学是である「仁」の精神を基盤に、「心身を癒す看護実践能力を修得する」という学部の教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修して所定の単位を修得するとともに、次の資質・能力を身に付けた者に対し、学士（看護学）の学位を授与します。

1. 他への思いやり、慈しむ心、高い倫理観を備え、良好な人間関係を築くことができる能力
2. 保健医療福祉において、科学的根拠に基づき看護を実践し、多職種と連携、協働できる能力
3. 情報化・グローバル化する社会で看護職者としての役割を担うために、豊かな教養・国際的視野を持ち、異文化を理解する能力
4. 看護学領域における課題を明確化し、科学的な方法を用いて、問題解決の道筋を構想する能力
5. 専門職者として自律的に研鑽し続け、専門性を発展させる能力

◎カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

保健看護学部の教育課程は、「人間と教養」「人間の健康」「看護の理論と方法」「保健看護の統合と発展」の 4 つの科目群により構成され、段階的に理解力が深められるように工夫しています。保健師課程は選択制としますが、新設科目を提供することにより、保健師国家試験受験資格を取得しない学生の学習意欲を継続させ、さらなる学習の発展を図り、卒業後のキャリアに生かせるよう工夫します。

1. 他への思いやり、慈しむ心、豊かな教養、高い倫理観を備え、良好な人間関係を築くことができる能力を涵養するためにリベラルアーツ関連科目を全学年にわたりバランスよく配置し、そこで培った仁の精神や倫理観を 1～4 年次に配置している看護専門科目及び看護学実習を通してさらに深めています。
2. 看護実践に必要な知識・技術及び態度を修得する「生活援助技術」を初年次より配置し、エビデンスに基づく看護技術の習得を目指します。「各領域看護方法論」では人々の保健医療福祉に関連した諸学問を総合的に活用し、看護の対象となる人々の成長発達、身体的、心理社会的、地域特性を捉え、「形態機能学」や「臨床医学」の科目で学んだ知識を活用しながら健康課題及び生活支援のアセスメントができるようにします。さらに臨地実習を通して段階的に看護実践能力の向上を図るように編成します。

保健看護学部

3. 保健医療福祉における看護職者の専門性を自覚し、多職種での連携、協働できる能力を育成するために、1 年次より早期に「地域包括ケア探索実習」や「多職種連携医療体験実習」を開始します。各学部、医学部附属病院、地域の保健医療福祉機関と連携し、「地域包括ケア実践統合実習」などを通して多職種での連携について学修できるよう工夫します。
4. 進歩･変化の著しい保健医療福祉分野を総合的に理解し､創意工夫して課題解決するために、演習や実習科目を中心に集団での課題解決学習を取り入れます。また、情報通信技術（ICT）を用いて情報を利活用する能力、情報リテラシーの獲得ができるように初年次から「データサイエンス導入」「データサイエンス実践」を配置し、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」に対応するとともに、養護教諭 2 種免許状の取得要件(教育職員免許法施行規則第 66 条の 6)を満たすようにします。さらに 2 年次には「看護と ICT」の科目を配置します。学生個々が所有するパソコンを活用しながらオンラインを活用した授業・実習を提供します。
5. グローバル化する看護職者の活動の場で役割を担うために必要な外国語運用能力を高める英語科目を必修とし、国際的視野を持ち、異文化を理解する能力を高めるために 2 年次に「グローバル社会と看護」、4 年次に「グローバルヘルス」を配置します。また、海外研修や国際オンライン研修を提供し、国際的視野を獲得できるようにします。
6. 看護への関心を深め、探究心を持って研究に取り組むことができる能力を育成するために、初年度の「教養ゼミナール」や 3・4 年次に「卒業研究」を配置します。そしてリサーチマインドを持った臨床家、研究者、次世代を育成する教育者等、大学院進学等を含めたキャリア設計を描けるよう丁寧な個別指導を行います。
7. 1 年次よりスポーツ及び健康に関する科目を配置し、静岡県東部地域に位置する地域性を生かした「野外スポーツ実習」を行い、他学部との交流を通して、自らの健康維持増進に留意して能動的に学び続けることができるようにします。
8. 3 年次には｢スポーツと看護｣｢クリティカルケア実践｣｢データサイエンスの看護への応用｣「やさしい日本語と看護」を新設して、将来のキャリアに役立つように多様な学びが可能となるよう工夫します。

学修成果は、授業科目の修得状況による客観的評価、コンピテンスの項目群を学生が参照し、定期的に自己のパフォーマンスを評価する主観的評価によって包括的に評価します。評価結果の活用を通じて、教育方法の改善につなげていきます。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

国際教養学部

◎ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

国際教養学部では、「仁」を学是、「不断前進」を理念、「三無主義」を学風とする精神の下、「グローバル市民の育成」という教育目標に沿って設定されたカリキュラムを履修し、所定の単位を修得するとともに、次の資質・能力を身に付けた者に対し、「学士（国際教養学）」の学位を授与します。

1. グローバル化が進む国際社会において、人間そのものとその社会的・文化的な営みを総合的に理解し、人間と社会、自然と科学、生命と健康、世界と日本を含む国際教養学に関連する広範な分野にわたる知識を修得し、それらを統合して活用する能力
2. 自分とは異なるアイデンティティを持つ人間や文化を理解する心を涵養し、多様性を尊重するとともに、寛容さを持って相互交流を図る能力
3. 母語及び母語以外の言語（外国語）でのコミュニケーション能力を駆使し、多様な人々と繋がり、自らの考えを論理的に説明し、相互の関係を築く能力
4. グローバル市民として活躍するための基盤となる国際的な教養に加え、文化の違いを超えて活躍できる専門性（異文化コミュニケーション、グローバル社会、グローバルヘルスサービスの三領域）を備え、人類が直面する問題を発見し、解決策を探る多面的かつ柔軟な思考力と行動力

◎カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

国際教養学部においては、「仁」を学是、「普段前進」を理念、「三無主義」を学風とする精神の下、「グローバル市民」の育成を目指した教育課程を、四年間にわたって次のとおり編成します。

【導入期】

1. リベラルアーツの基礎
   初年次に「国際教養概論～グローバル市民を目指して～」を履修し、異文化コミュニケーション、グローバル社会、グローバルヘルスサービスの三つの領域に触れ、これらの領域間の関係性についての理解を深めます。
2. コミュニケーション能力の基礎
   リベラルアーツ演習を通じて、プレゼンテーション及びファシリテーションの技術を実践し、グローバル市民としての基本的なコミュニケーション能力を養います。
3. 多言語能力の育成
   初年次及び二年次における外国語教育では、「複言語主義」と「言語文化アプローチ」に基づき、英語に加えてフランス語、スペイン語、中国語から一言語を選択し、履修します。授業を通じ、異文化コミュニケーションの重要性を学び、TOEFL 等の国際標準の語学力測定試験による能力評価を行います。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

国際教養学部

【形成期】

4. リベラルアーツの深化

二年次には、健康及び医療を含む幅広い分野にわたる教養基盤科目と外国語科目を学び、文系・理系の区別なく、多様な知識と豊かな人間性・倫理観を培います。

5. 統合的学修への橋渡し

二年次より、異文化コミュニケーション、グローバル社会、グローバルヘルスサービスの三領域に関する必修科目を均等に履修します。これにより、学生は各領域の基礎知識を深め、領域間の相互関連性を理解し、社会における複合的な問題解決能力を養います。

【完成期】

6. 教養展開科目としての三領域学修

三年次以降、異文化コミュニケーション、グローバル社会、グローバルヘルスサービスの三領域に関する科目を教養展開科目として設定します。学生は、次に掲げる三つの領域にわたる科目を横断的に履修し、複眼的思考を促す教育編成を通じて、広範な視野と深い洞察力を養います。

(1) 異文化コミュニケーション領域：学生は、異なる文化間のコミュニケーションが内包し、表象する課題について深く理解し、多文化・多言語社会の構築に寄与する方法を学びます。

(2) グローバル社会領域： 学生は、様々な主体から成るグローバル社会の在り様と、そこで展開されるグローバルな社会的課題、それらの背景や捉え方について学びます。

(3) グローバルヘルスサービス領域：学生は、生命、身体、健康及び医療に関わる日本及び世界の諸問題について学びます。

7. 専門的な外国語教育と国際経験の提供

学生の将来の進路に対応して、「国際共修科目」を設定し、英語を基本とした授業を海外からの留学生と共に履修します。また、フランス語、スペイン語、中国語の上級コースを提供します。さらに、海外留学及び「海外研修プログラム」を通じて実践的な国際経験を積む機会を学生に提供します。

8. 演習科目による専門性の深化

三年次及び四年次に設定される「グローバル市民演習」を通じ、学生は指定されたゼミナールのテーマに沿って、個人研究を深めます。

9. 卒業論文の指導と完成

学生は、所属ゼミナールで扱う専門分野の知識を基に、必要に応じて他分野の学修を取り入れながら、卒業論文を作成します。この過程を通じて、総合的な問題解決能力及び専門知識の応用能力が育成されます。

国際教養学部

【キャリア形成における２つの柱】

10. キャリア形成支援の取り組み

入学直後の初年度より、学生の社会的及び経済的自立を促進するため、キャリア形成支援に焦点を当てた教育を実施します。「キャリア形成支援科目」を正規のカリキュラムとして組み込み、単位化を行います。

11. 教職課程の提供

中学校及び高等学校教諭（英語）の１種免許状取得を目指す学生は、指定された科目を履修し、所定の単位を修得することで、教員免許を得ることができます。

【学修方法】

12. アクティブ・ラーニングの促進

教育手法として、少人数制授業と協同学習を通じて学生の主体性を引き出すアクティブ・ラーニングを推進します。これにより、学生は自ら積極的に学習に参加し、深い理解を促進します。

【学修成果の評価】

13. 包括的な学修成果の評価

学修成果は、授業科目の修得状況に基づく客観的な評価と、コンピテンスの各項目を用いた自己評価により包括的に行います。この評価結果を用いて、教育内容及び方法の継続的な改善を図ります。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

保健医療学部

◎ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

保健医療学部では、「本学の学是である「仁」の精神に基づき、人間尊重の理念と高い倫理観と豊かな人間性を育み、医学や医療に係る基本的知識に裏打ちされた科学的根拠に基づく専門的知識及び医療技術を教授して、確かな実践能力と態度を身につけ、自己成長を目指して主体的に学修を継続することのできる資質の高い医療専門職者を養成する」ことを教育研究上の目的とします。卒業時に次の資質・能力を身に付けた者に対し、学士の学位を授与します。

＜保健医療学部共通＞

1. 人間尊重の理念と高い倫理観を持ち、豊かな人間性を備えて人間の生活と健康状態における普遍性と多様性に強い関心と深い理解を示し、社会に貢献できる能力
2. 医学・医療に係る基本的知識を身につけるとともに、自己の専門分野における科学的根拠に基づいた体系的な専門的知識を修得し、実践能力を発揮することができる能力
3. 自己の専門分野に対する向上心と研究心を持ち、生涯を通して継続して自己研鑽に励み、自己成長していく能力

＜理学療法学科＞

保健医療学部共通の資質・能力に加え、次の資質・能力を身に付けた者に『学士（理学療法学）』の学位を授与します。

1. 人間の生命・人権を尊重し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、社会に貢献できる能力
2. 理学療法を必要としている人々を全人的に理解する能力
3. 人体の機能や構造及び疾患の病態に応じた診断・治療を理解し、人々の健康・疾病・障害に対する観察力や判断力が身に付いている
4. 理学療法学を必要としている人々に対して、科学的根拠に基づき理学療法を実践できる能力
5. 理学療法学に対する向上心と研究心を持ち、生涯に亘って主体的に継続して学修に取り組むことができる能力

＜診療放射線学科＞

保健医療学部共通の資質・能力に加え、次の資質・能力を身に付けた者に『学士（診療放射線学）』の学位を授与します。

1. 人間の生命・人権を尊重し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、社会に貢献できる能力
2. 放射線技術を必要としている人々を全人的に理解する能力
3. 人体の機能や構造及び疾患の病態に応じた診断・治療を理解し、人々の健康・疾病・障害に対する観察力や判断力が身に付いている
4. 放射線技術の対象及び目的について理解し、健康や障害の状態に応じて科学的根拠に基づく放射線技術を実践できる能力
5. 放射線技術学に対する向上心と研究心を持ち、生涯に亘って主体的に継続して学修に取り組むことができる能力

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

保健医療学部

◎カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

保健医療学部では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力を身に付けるために、授業科目を『基礎分野』『専門基礎分野』及び『専門分野』に区分し、それぞれの教育が有機的に連動し、基礎から応用、応用から発展に向けて段階的に関連性を持ち、体系的に学修できるようにカリキュラムを編成します。

＜保健医療学部共通＞

1. 人間尊重の理念と高い倫理観を持ち、豊かな人間性を持った理学療法士及び診療放射線技師を育成するため、『基礎分野』人間科学系の選択科目を学修して人間の理解を深め、演習やゼミナール、実習・実験で行うグループワークによって相手の立場に立って物事を考える大切さを認識し、臨床実習による医療現場において患者との対応を経験するなかで思いやりや態度を身につけることができるようにカリキュラムを編成します。
2. 医学と医療を総合的に理解し、科学的根拠に基づいた実践能力を修得し、主体的に行動できる能力を育成するために必要となる専門的知識・技術を着実に身につけ、高度な専門教育につながるカリキュラムを編成します。
3. 演習、ゼミナール、実習科目を通じて主体的に学修する能力と自己研鑽を続け、自己成長する態度を身につける教育を行います。
4. 「卒業研究」を必修科目として卒業論文を課し、卒業論文をまとめる過程を経験することにより主体性をもって研究を遂行できる能力を育成します。

＜理学療法学科＞

1. 人間尊重の理念と高い倫理観を持ち、豊かな人間性を持った理学療法士を育成するため、『基礎分野』人間科学系の選択科目を学修して人間の理解を深め、演習やゼミナール、実習で行うグループワークによって相手の立場に立って物事を考える大切さを認識し、臨床実習による医療現場において患者との対応を経験するなかで思いやりや態度を身につけることができるようにカリキュラムを編成します。
2. 理学療法学の知識と基本となる理論を学修し、個人、家族及び地域社会の人々それぞれの健康レベルに応じて科学的根拠に基づいた理学療法の治療技術を着実に身につけるための授業科目を体系的に配置し、高度な専門教育に繋がるカリキュラムを編成します。
3. 演習やゼミナール、実習による授業や『専門分野』総合領域の授業「理学療法研究法」「卒業研究」を学修することにより、主体性を持って学修や研究を継続して遂行し、自己研鑽して自己成長する態度を修得できるようにカリキュラムを編成します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

保健医療学部

＜診療放射線学科＞

1. 人間尊重の理念と高い倫理観を持ち、豊かな人間性を持った診療放射線技師を育成するため、『基礎分野』人間科学系の選択科目を学修して人間の理解を深め、演習や実習で行うグループワークによって相手の立場に立って物事を考える大切さを認識し、臨床実習による医療現場において患者との対応を経験するなかで思いやりや態度を身につけることができるようにカリキュラムを編成します。
2. 医学と医療を総合的に理解し、放射線医学領域に係る専門的知識と技術を着実に身につけるための授業科目を体系的に配置し、高度な専門教育に繋がるカリキュラムを編成します。
3. 演習・実習・実験による授業や『専門分野』総合領域の授業「卒業研究」を通して学修することにより、主体性を持って学修や研究を継続して遂行し、自己研鑽して自己成長する態度を修得できるようにカリキュラムを編成します。

学修成果は、授業科目の修得状況による客観的評価と、定期的に自己のパフォーマンスを評価する主観的評価とによって包括的に評価します。評価結果の活用を通じて、教育方法の改善につなげていきます。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

医療科学部

◎ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

医療科学部では、「本学の学是である「仁」の精神に基づき、人間尊重の理念と高い倫理観と豊かな人間性を育み、医学や医療に係る基本的知識に裏打ちされた科学的根拠に基づく専門的知識及び医療技術を教授して、確かな実践能力と態度を身につけ、自己成長を目指して主体的に学修を継続することのできる資質の高い医療専門職者を養成する」ことを教育研究上の目的とします。卒業時に次の資質・能力を身に付けた者に対し、学士の学位を授与します。

＜医療科学部共通＞

1. 人間尊重の理念と高い倫理観を持ち、豊かな人間性を備えて人間の生活と健康状態における普遍性と多様性に強い関心と深い理解を示し、社会に貢献できる能力
2. 良質な医療を提供するうえで求められる、患者や他の医療職者に対して適切にコミュニケーションできる能力
3. 医学・医療に係る基本的知識を身につけるとともに、自己の専門分野における科学的根拠に基づいた体系的な専門的知識を修得し、実践能力を発揮することができる能力
4. 自己の専門分野に対する向上心と研究心を持ち、生涯を通して継続して自己研鑽に励み、自己成長していく能力

＜臨床検査学科＞

医療科学部共通の資質・能力に加え、次の資質・能力を身に付けた者に『学士（臨床検査学）』の学位を授与します。

1. 人間の生命・人権を尊重し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、社会に貢献できる能力
2. 他者の思いや考えを理解し、良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力
3. 人体の機能や構造及び疾患の病態に応じた診断・治療を理解し、人々の健康・疾病・障害に対する観察力や判断力が身に付いている
4. 臨床検査及び周辺領域に関する専門的知識と医療技術を持ち、科学的根拠に基づいた有効な臨床検査を実践できる能力
5. 臨床検査学に対する向上心と研究心を持ち、生涯に亘って主体的に継続して学修に取り組むことができる能力

＜臨床工学科＞

医療科学部共通の資質・能力に加え、次の資質・能力を身に付けた者に『学士（臨床工学）』の学位を授与します。

1. 人間の生命・人権を尊重し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、社会に貢献できる能力
2. 他者の思いや考えを理解し、良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力
3. 人体の機能や構造及び疾患の病態に応じた診断・治療を理解し、人々の健康・疾病・障害に対する観察力や判断力が身に付いている

医療科学部

4. 医療機器の高度化・多様化に対応し、科学的根拠に基づいた医療機器の管理・操作・保守・点検を実践できる確実な専門的知識と技術
5. 臨床工学に対する向上心と研究心を持ち、生涯に亘って主体的に継続して学修に取り組むことができる能力

◎カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

医療科学部では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力を身に付けるために、授業科目を『基礎分野』『専門基礎分野』及び『専門分野』に区分し、それぞれの教育が有機的に連動し、基礎から応用、応用から発展に向けて段階的に関連性を持ち、体系的に学修できるようにカリキュラムを編成します。

＜医療科学部共通＞

1. 人間尊重の理念、高い倫理観と豊かな人間性を併せ持った臨床検査技師及び臨床工学技士を育成するため、『基礎分野』の科目を学修して人間の理解を深めるとともに、『専門基礎分野』『専門分野』における演習、実習・実験で行うグループワーク等を通して相手の立場に立って物事を考える大切さを認識する。臨床実習により医療現場において患者との対応を経験するなかで思いやりや態度を身につけることができるようにカリキュラムを編成します。
2. 医療専門職者として必要な協調性とコミュニケーション能力を涵養するため、『基礎分野』の科目を学修して人間の心理や人間関係の基本的あり方を理解し、演習・実習科目でのグループワーク等により相手との協調性やコミュニケーション能力を養成し、臨床実習の経験の中で他職種者連携に関する理解を深め、患者との対応を通してコミュニケーションの重要性を理解できるようにカリキュラムを編成します。
3. 医学と医療に係る基本的知識を基に主体的に行動できる能力を育成するために必要となる科学的根拠に基づいた専門的知識と技術を着実に修得できるようにカリキュラムを編成します。
4. 演習科目や実習科目等を配置し、自ら学修する能力を備え、自己研鑽を続けて自己成長する態度を身につける教育を行います。
5. 『総合研究』に配置する授業科目を学修し、特別研究や卒業研究に取り組み、課題を発見し、まとめる過程を学修することにより、主体性をもって課題解決や研究を遂行できる基礎的な能力の育成を育成します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

医療科学部

＜臨床検査学科＞

1. 人間尊重の理念、高い倫理観と豊かな人間性を併せ持った臨床検査技師を育成するため、『基礎分野』人間科学系の選択科目を学修して人間の理解を深め、演習や実習で行うグループワーク等を通して相手の立場に立って物事を考える大切さを認識し、臨地実習により医療現場において患者との対応を経験するなかで思いやりや態度を身につけることができるようにカリキュラムを編成する。
2. 医療専門職者として必要な協調性とコミュニケーション能力を涵養するため、『基礎分野』の科目を学修して人間の心理や人間関係の基本的あり方を学修し、演習・実習科目でのグループワーク等により相手との協調性やコミュニケーション能力を養成する。臨地実習の経験の中で他職種者連携に関する理解を深め、患者との対応を通してコミュニケーションの重要性を理解することができるようにカリキュラムを編成する。
3. 医学・医療及び臨床検査学の知識と基本となる理論を学修し、対象となる人々の健康レベルに応じて科学的根拠に基づいた臨床検査技術を着実に身につけるための授業科目を『専門基礎分野』及び『専門分野』において体系的に配置し、専門的知識と技術を着実に修得できるようにカリキュラムを編成する。
4. 『総合研究』に配置する授業科目を学修し、課題解決や研究を遂行できる基礎的な能力の育成を図り、生涯を通して継続して学修に取組むことができるようにカリキュラムを編成する。

＜臨床工学科＞

1. 人間尊重の理念と高い倫理観を持ち、豊かな人間性を併せ持った臨床工学技士を育成するため、『基礎分野』人間科学系の選択科目を学修して人間の理解を深め、演習や実習で行うグループワーク等を通して相手の立場に立って物事を考える大切さを認識し、臨床実習により医療現場において患者との対応を経験するなかで思いやりや態度を身につけることができるようにカリキュラムを編成する。
2. 医療専門職者として必要な協調性とコミュニケーション能力を涵養するため、『基礎分野』の科目を学修して人間の心理や人間関係の基本的あり方を学修し、演習・実習科目でのグループワーク等により相手との協調性やコミュニケーション能力を養成する。臨床実習の経験の中で他職種者連携に関する理解を深め、患者との対応を通してコミュニケーションの重要性を理解することができるようにカリキュラムを編成する。
3. 医学・医療と工学を総合的に理解し、臨床工学領域に係る専門的知識と技術を着実に身につけるための授業科目を『専門基礎分野』及び『専門分野』において体系的に配置し、専門的知識と技術を着実に修得できるようにカリキュラムを編成する。
4. 『総合研究』に配置する授業科目を学修し、課題解決や研究を遂行できる基礎的な能力の育成を図り、生涯を通して継続して学修に取組むことができるようにカリキュラムを編成する。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

医療科学部

学修成果は、授業科目の修得状況による客観的評価と、定期的に自己のパフォーマンスを評価する主観的評価とによって包括的に評価します。評価結果の活用を通じて、教育方法の改善につなげていきます。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

健康データサイエンス学部

◎ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

健康データサイエンス学部では、「本学の学是である「仁」の精神に基づき、幅広い教養に裏付けられた豊かな人間性と高い倫理観、国際性を育み、データサイエンスに関する専門知識と技術を修得するとともに、健康・医療・スポーツ領域を理解するための基本的な知識を学修し、データサイエンスを応用して課題解決や新たな価値やサービスを生み出すことのできる実践能力を身につけ、自己成長を目指して主体的に学修を継続できる人材を養成する」ことを教育研究上の目的とします。卒業時に次の資質・能力を身に付けた者に対し、学士の学位を授与します。

1. 学是「仁」の精神に基づき、幅広い教養に裏付けられた豊かな人間性と高い倫理観、グローバル社会におけるコミュニケーション能力や国際的視野という国際性を備え、社会に貢献できる能力
2. データサイエンスの基礎となる数理統計、コンピュータサイエンス等を学修して身につけたデータの収集・加工・分析・解析等、データサイエンスに関する専門知識と技術
3. データサイエンスの専門知識と技術を応用して健康・医療・スポーツ領域において新たな価値を生み出すために必要となる健康・医療・スポーツ領域を理解するための基本的な知識
4. データサイエンスの専門知識と技術を応用して健康・医療・スポーツ領域における課題解決の方策を考案・提言し、新たな価値やサービスを生み出すことができる実践能力
5. 健康・医療・スポーツ領域の専門性を有する人達と円滑なコミュニケーションを図り、協同して現場での課題に対応することができるプレゼンテーション能力
6. 健康・医療・スポーツ領域におけるデータサイエンスに興味や関心を持ち続け、自律的な学修を継続して自己成長する態度

◎カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

健康データサイエンス学部では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力を身に付けるために、授業科目を『一般教養科目』『専門科目』に区分し、それぞれの教育が有機的に連動し、基礎から応用、応用から発展に向けて段階的に関連性を持ち、体系的に学修できるようにカリキュラムを編成します。

1. 『一般教養科目』の科目を学修して、幅広い教養に裏付けられた豊かな人間性と高い倫理観、グローバル社会におけるコミュニケーション能力や国際的視野という国際性を身につけることができるようにカリキュラムを編成します。

健康データサイエンス学部

2. 『専門基礎科目』に配置される『コンピュータ基礎科目』『数理統計データサイエンス基礎科目』及び『専門展開科目』に配置される『コンピュータ科目』『数理統計データサイエンス科目』の科目を学修して、コンピュータのハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、プログラミング及び情報セキュリティや数理統計に関する基礎から応用に至る知識と技術を身につけ、データサイエンスに関する専門知識と技術を修得することができるようにカリキュラムを編成します。
3. 『専門基礎科目』『健康医療スポーツ科目』の科目を学修して、健康・医療・スポーツ領域に関する基本的知識を身につけ、健康・医療・スポーツ領域におけるデータサイエンスの必要性や発展について着実に修得できるようにカリキュラムを編成します。
4. 『専門展開科目』『健康医療データサイエンス科目』『スポーツデータサイエンス科目』の科目を学修して、健康・医療・スポーツ領域における多様なデータを収集・加工・分析・解析する専門知識と技術を修得し、課題解決の方策を考案・提言し、新たな価値やサービスを生み出すことができる実践能力を修得できるようにカリキュラムを編成します。
5. 『総合研究』の科目を学修して、実務家による講義や実社会での体験を通して各自の研究分野に対するモチベーションを高め、総合演習を経て卒業研究に取り組むことにより、個々の研究課題を設定し必要な状況を論理的に分析・解析し、解決策を提示する能力を修得できるようにカリキュラムを編成します。
6. 『専門科目』におけるグループワークを通して、課題解決に向けての論理的な思考やプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につけることができるようにカリキュラムを編成します。
7. 『専門科目』の科目を学修して、自律的な学修を継続して自己研鑽を続け、自己成長する態度を身につけることができるようにカリキュラムを編成します。

学修成果は、授業科目の修得状況による客観的評価と、定期的に自己のパフォーマンスを評価する主観的評価とによって包括的に評価します。評価結果の活用を通じて、教育方法の改善につなげていきます。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

薬学部

◎ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

薬学部では、学是「仁」の精神に基づき、医療、健康・福祉、社会の発展に貢献できる薬剤師や薬学研究者等の薬学専門職者の育成のために策定した各年次のカリキュラムを履修し、かつ定められた基準に合格し、順天堂大学薬学部のコンピテンシーを身に付け、次の資質・能力を修得した者に対して学士（薬学）の学位を授与します。

1. 医療人として豊かな人間性と高い責任感と倫理観を持ち、生涯に渡りアクティブに自分の目標に向けた学習をするための不断前進の態度・習慣を身につけ、他を思いやり慈しむ心（学是「仁」）を持った行動ができる。
2. 幅広い教養とグローバル化に対応できる国際感覚を持ち、他者と信頼関係を構築することができ、良好なコミュニケーションがとれる。
3. 薬学の社会的位置づけを理解し、社会医学、地域包括ケアシステム、プライマリ・ケアを理解したうえで、地域医療と健康・福祉に果たすべき薬学専門職の役割を概説できる。
4. 科学的根拠に基づいた医療・薬学研究および薬剤師としての職能の基盤となる基礎、臨床の薬学的知識・技能を有し、体系的に理解し説明でき、問題解決のために論理的に思考できる。
5. 薬学専門職として、適切に多職種と連携協働することができ、主体的かつ協調性を持って問題解決を図ることができる。

◎カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

薬学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識や技能、態度を修得するため、次に示すカリキュラム・ポリシーに基づき教育課程を編成・実施し、それぞれの学修目標の到達度を適正に評価するための方法及び基準を定め、これをシラバスに明記して学生に周知し、学修成果を厳格かつ公正に評価します。

1. 高い倫理観、責任感と幅広い視野を備えた見識を持ち、自己研鑽意欲を高め、主体的に学び研究活動ができる能力の獲得へと繋がる教育科目を配置する。
2. 社会を理解しグローバル化に対応した国際感覚や語学力を有する薬剤師を育成するために、全学年を通じて論理的・批判的思考力、コミュニケーション能力、国際性、協調性、自己管理能力を養う教育科目を配置する。
3. 薬学専門職としての視点・視野・価値観を持ち、医療における薬学の社会的責任と要請を理解し、高度化、専門化する医療に対応できる薬剤師を育成するための専門教育科目を系統的かつ累進的に配置する。
4. 薬学研究に必要な知識・技術・技能および思考力を統合させた問題探索・解決能力を養成し、臨床的視点を持った薬学専門職者として創造性を発揮できる能力を育む科目を配置する。

薬学部

5. 薬学専門職としてチーム医療や地域医療連携、健康・福祉の場において活躍する薬剤師に不可欠な資質が伴ったコミュニケーション能力を修得するために、多職種連携に関わる他学部との合同講義、演習・実習科目を配置する